



千八百七十九年七月二十九日刊行「ヘラルド」新聞抄譯  
「ガゼット」記者ノ説ヲ駁ス

大藏省  
翻譯課

4251



114  
A 3498



天正十一年四月

和田信郎 記

カゼツト記者ノ説ヲ駁ス  
七十九年七月二十九日刊行ノラルド新聞抄記

今ヤ世上ニ日本銀田ヲレテ洋銀ト共等ノ價格ニテ流通セシメ  
ント欲スルノ問題ヲ發スルニ當リカゼツト記者ノ執執ナル常  
ニ日本政府ニ抵抗シ其論スル所事實ヲ失セザルハナシ是誠ニ  
我輩ノ痛歎ニ堪ヘサル所也抑モ該記者ノ因テ以テ根據トスル  
點ニ該政府ノ準備僅々六百万田ニシテ之ヲ發行紙幣ノ準備ト  
ナスハ實ニ僅小ナルカ故ニ若シ其準備ヲ外出スルガ如キ舉ア  
ラシメバ却テ該政府ニ利アラズ支那ニ於テハ惟之ヲ地金ノ價  
ニテ受取ル而已ト言フニ過ス蓋シ該記者ハ自家ノ論説ハ該者  
ノ貴重スル所ナルベシト自ラ思考スベシト虫氏讀者ノ為ニハ  
却テ日本ノ外國貿易上ニ係リ其銀貨流用ノ得失ヲ論スルヲ以

「貴重ノ論説」ト見ルべシ而シテ惟日支兩政府ヲシテ各自己ノ  
利ヲ謀ラシメシト論スルニ若カス又大隈氏ノ管掌スル準備金  
ハ頗ル巨額ナルモ確定ナラザルヲ注目セル人ハ準備金六下  
万円ナルヲ持シ喋々セスト虫氏既ニ此等ノ人ノ明知シタル  
所ナルガ故ニ却テ之ヲ喋々セザルヲ可トスベシ  
又輒近日本補助貨幣ヲ香港及ヒ印度地方ニ船載シタルニ當リ  
此等小銀貨ノ粗悪ニシテ一般ノ通貨ト信用シ難キトノヲ暴  
露スルニ至レリトガセツト記者カ言ヘリト虫氏我輩ハ一撃ノ  
下ニ之ヲ論破セシ即チ我輩ハ印度地方ニ輸送シタル銀貨ノ決  
シテ粗悪ニアラザルヲ確知セリ見ヨヤ鎔解ノ目的ヲ以テ支那  
ニ輸送シタル諸外国銀行ニ於テハ皆日本鑄造ノ貨幣ヲ信用シ  
タルヲ而シテ又我輩ノ見聞スル所ヲ以テセハ斯ク輸出セル毎  
一輸送者ハ皆最モ満足ナル結果ヲ占有シ併テ日本造幣局ノ鑄

造幣ノ大ニ信憑セラルルヲ見ル

却説世人ノ最モ信憑セラルルニキ確報ヲ得ント欲スル事俾ニ付  
我同業記者ノ誤謬ヲ傳ヘシヨリ我輩ハ只管此誤ヲ正サント欲  
シ尚ホ茲ニ細論セントス凡ソ惑フテ其事ヲ論センヨリ寧口全  
ク論セザルニ若カスガゼツト記者カ日本補助貨幣ノ粗悪トナ  
レル所以ヲ説テ云ハラク銀貨鑄造ニ付テノ收入即チ其利益ニ  
付前記計算ノ如クナルハ一割一步ニ重五毛ヨリ二割一步ニ  
重三毛ニ増加シタルニ非スヤ是レ曩者政人ノ造幣局ヲ管理セ  
ルハニ當リ得タル所ノ利益ニ超過セルヲ殆ント一割ヲ増加セ  
ル也ト  
此ノ如ク誤記者カ事實ヲ誤テ附會ノ説ヲナセルヲ見テ我輩ハ  
凡ソ物ノ算數ヲ除クノ外凡百ノ事實ニ至テハ一トシテ其重理  
ヲ誤ミルノ恐アラザルモノナレト諒ヲ思ヒ起セリ乃チ誤記者

論ニ於レバ時昔造幣局ニ於テ銀貨鑄造ノ利益ト向後鑄造ノ利益トノ間ニ違差アルハ鑄造粗惡ナルノ致ス所ナリトモ我輩一之ヲ然リトセズ補助貨幣量目ノ一回銀及ヒ貿易銀ノ二貨<sup>違差</sup>補助貨幣ノ精分ハ十分ノ八、一回及ヒアルト時昔造幣局ニ於テ貿易銀ノ精分ハ十分ノ九ナリ<sup>有セルヲ以テ鑄造ノ利益多キモノナリ</sup>テ專ラ一回銀及ヒ貿易銀ノ鑄造ニ從事シタルト向後ニ於テ五錢十錢二十錢ノ鑄造<sup>此等ノ小貨ハ十分一以上ノ混合物ヲ含</sup>ニ從事シタルトニ因テ其違差ヲ致セリトス

又談記者ハ華聖頓及ヒ倫敦ニ於テ年々日本ノ貨幣ヲ試験シ其精密ナルヲ見テ偏ニ日本造幣局役員ノ謹慎以テ其事務ニ從事セルトヲ説ケリト雖其実ハ該局ノ面目ニ関スル所ナシトセガルヲ以テ亦徒ニ誹謗ノ末ニ止マル而已若シ夫日本ノ補助貨幣ニ汚辱ヲ与フルトセバ英國ノ六ペンス或ハシリングノ粗惡ナルヲ明言スルニ亦何ノ忌ム所カアル

又談記者曰ク前記ノ計算ハ必スヤ其間ニ謬誤アルアリテ大藏卿ハ此過失ヲ致セルベシ然リト雖正當ナル政府ノ報告ボニ因ルヲ以テ此ボノ昏ノ精確ナラサルヲ確認セザルニアラガレバ我輩ハ未タ敢テ之ヲ然ラスト云フヲ得サル也ト嗚呼何ソカゼットノ誤解一ニ此ニ至ルヤ其計算ニ於テハ實ニ明瞭精確ナリ惟其誤ハ記者自カラ為セル誤ナリ思フニ記者ハ自己ノ論主ノ何タルヲ解セシテ而モ世ニ日本政府ノ誤ヲ傳ヘント欲スルハ則チ自己ノ曖昧ヲ公ニスルニ外ナラス是故ニ亦補助銀貨ハ粗惡ノ寬ヲ雪キ青天白日ノ貨幣タルベシ畢竟此ノ如ク誤ヲ公言シ其說浮萍ノ如クナル新聞紙ニシテ世ノ信憑ヲ得ント欲スルハ抑モ亦難哉



